



研究開始からいままで

清水 晶

金沢医科大学皮膚科学教室教授

膠原病の原因には研修医のころから興味があった。さまざまな自己抗体が出現し、一卵性双生児の場合は発症率が高くなると聞き、原因がわかりそうでわからない状態と感じた。いま思うと単純であるが、原因はウイルスに違いないと信じ基礎研究室に入れてもらうことにした。ウイルス学を勉強するにしたいが、どうも通常のウイルス感染や遺伝子変異だけではないのではと考えるようになった。そんな中、たまたまウイルス様の配列(レトロトランスポゾン)がRNAウイルスを逆転写するという現象に出合った。自分としては大発見であり、SLEでみられる抗DNA抗体などとも関連するに違いないと想像が膨らんだ。レトロトランスポゾンはヒトゲノムで多くの割合を占めるが、役割はよくわからないらしい。膠原病のような原因不明の疾患が関連すると仮定しても変ではないはずだ。所属した研究室のテーマではなく手探りであったが、なんとかして海外の研究者とやり取りし研究を軌道に乗せた。ありがたいことに、当時のボスは本当に自由にやらせてくれた。

自分の「学説」を教室のスタッフや訪れてくるウイルス研究者を捕まえて聞いてもらっていた。「そんなことをしていると卒業できないよ」とアドバイスされることもあったが、ウイルス関連学会で出会う1~2人のディープなファンが救いであった。自分でみつけた事実と考えを披露し、聞いてもらえるのは嬉しいものである。大学院から留学、帰国後

もこの研究を密かに続けてきたが、論文がなかなかアクセプトされず、この課題で研究費を獲得するのはむずかしかった。私についてくれた大学院生も、結果が出るかもわからないこの研究を恐れ、マンパワー的にも苦しかった(別のテーマでは本当によくやってくれた)。しかし、やめようと思うと不思議と興味深いデータが出て、支援者が出現する。さらに「テーマはお任せします」という殊勝な大学院生が現れ、現在進行中のものも含めいくつか論文を書くことができた。並行して進めたヒトパピローマウイルス(HPV)などの研究が思いのほかうまくいき、精神的にゆとりができたのも幸いした。

現在も散発的にレトロトランスポゾンの論文は出るが、膠原病の原因として認められているとはいえない。苦労して書いた自分の論文も忘れ去られるのだろうと思っていたが、最近コロナウイルスDNAが体内で検出されるという論文で引用されている(コロナウイルスは本来RNA)。どんな研究でもみてくれている研究者はいるものである。元来研究とは無縁であった自分がアカデミアで細々と生きてこられたのは、内容はともかく自分を駆り立ててくれるテーマを継続したからであろう。

4月から専門分野の異なる新天地に着任し、さすがにこれ以上の継続はむずかしいかもしれないが、いまだ思いきれずにいる。